

山代温泉通り商店街

(山代温泉通り商店街振興組合)

石川県加賀市

インバウンド

地域協働

新陳代謝

生産性向上

ポイント

観光客向けの付加価値向上プログラムと ICT 利活用による情報発信・データ分析で効率的な顧客獲得・消費喚起に挑戦。

基本データ

所在地	石川県加賀市山代温泉温泉通
人口	約 7 万人 (加賀市)
電話/FAX	0761-76-1176 / 0761-76-1176
URL	http://www.yamashiro-spa.com/onsendori/
会員数	42 名
店舗数	25 店舗 (小売業 12 店、飲食業 4 店、サービス業 5 店、金融業 2 店、その他 2 店)
商店街の類型	観光型
主な客層	国内観光客、主婦 /50 歳代、40 歳代

商店街概要

山代温泉の中心には、歴史的まちなみとして再生された「湯の曲輪 (ゆのがわ)」と古総湯・総湯の 2 つの公衆浴場、魯山人寓居跡いろは草庵等があり、山代温泉通り商店街はその古総湯から山代温泉東口方向へ 1 商店街 (約 150 m) を挟んだところに位置する。

来街者は、以前は関西・中京圏からの観光客が多かったが、北陸新幹線開業後は関東圏からの来訪が増加。外国人来街者も平成 23 年以降増加傾向にあり、特に新幹線開通後は前年対比 15%以上増加している。内訳は、アジア圏 (台湾・韓国・中国・香港他) 80%。中でも特に台湾が多数を占めるが、ここ数年は米欧州圏が増加している。

取組の背景

「これからの山代」を考える勉強会

北陸新幹線開業の効果もあり、地域には年間 80 万人の観光客が訪れていたが、当商店街ではほとんどの店舗が地域住民を対象とした品揃えになっており、観光客の取り込みにはつながっていなかった。さらに、商店街のイベント情報が観光客へ届いていない、観光客がまちなかに出て目当てのイベントや個店での対応ができていないなど、情報発信やおもてなしの面でも課題が生まれていた。

この状況を踏まえ、平成 28 年度には、商店街を中心に組織の枠組みを超えた若手メンバーで加賀山代塾を開催し、「これからの山代」とそれには何が必要か考える勉強会を 6 回開催し、地域のビジョンを検討した。

その結果、旅館や観光協会等と連携し、観光客がまちあるきをしたくなる魅力ある個店づくりや統一的な情報発信の実施、受入環境の構築、人材育成を進め、積極的に観光客を取り込み、域外の消費拡大を図っていくこととし、議論の場としてまちあるき部会を設けた。



商店街の様子



加賀山代塾の勉強会の様子

取組の内容

ICT の活用で情報発信・データ分析に挑戦

当エリアでは、平成 26 年から、地域資源×商店×地域住民で、賑わい創出とまち・ひとの活性化へつなげるまち塾 (まちなか商店学習塾) が実施されてきた。山代温泉通り商店街では「温泉・観光 (観光客)」を地域資源と捉え、「観光と共存する商店街」をテーマに付加価値向上の取組に着手することとなった。

平成 28 年度は温泉旅館と連携し、少しでも多くの観光客に商店街を訪れてもらうことを目的に観光客が参加可能なプログラムを実施。具体的には、観光協会と連携し、商店街の個店の店舗内に九谷焼きミニギャラリーを併設し、観光協会発行のパンフレットでスタンプラリーを実施する「九谷焼きミニギャラリーめぐり」や、観光客がクーポンを購入することで店舗のメニューを低価格で購入、複数店舗で利用で

きる「スイーツ食べ歩きクーポン、まち飲み歩きクーポンイベント」を開催。商店街の回遊性や来店率の向上につなげている。

また、商店街へのさらなる回遊性向上のためには、現在各団体や各店舗が個々に行っているイベント等の情報を観光客がリアルタイムで一元的に入手できるICT利活用による仕組みの構築が必要であると考え、情報発信プラットフォームアプリ「きてねっと」を導入。15カ国語リアルタイム翻訳機能を付加することで、外国人観光客にも対応できる体制を整えた。

「きてねっと」の導入に当たっては、若手世代を中心とした勉強会等を開催し、個店や地元の人しか知らないお得な情報等を各々が投稿することで、商店街を中心とした情報を一括して観光客に発信。観光客にとっての情報源のひとつであるSNSへの展開につなげている。

今後はこの仕組みをさらに活用し、「きてねっと」により得られるイベント、観光情報等のデータを分析し、国別アクセス等をフィードバックすることで、各店の売上向上につながる取組を進めていく予定だ。



「きてねっと」のメニュー画面と店舗情報（英語版）



「きてねっと」で配信しているイベント（アートイベント）

が一体となって観光客に対し一元的に着地情報を発信する事で、旅館のチェックイン前、チェックアウト後のまちあるきや夜歩きを促すことができている。また、タイムリーな告知により現地での開催イベントが周知できるため、商店街単独ではなく、他のイベントと連動することやより広い連携のイベント等を効率的に実施することが可能になっている。

また、ICTを利活用した各店舗ごとの誘客展開や、デジタルマーケティング分析が可能になるため、今後も引き続き若手中心の勉強会を開催し、活用後の取組を具体化していく予定だ。

さらに、まち塾については、平成28年度までは石川県中小企業団体中央会からの支援によりアドバイザーを活用し実施していたが、平成29年度からは商店街単独予算で自立事業として中央会と連携しながら実施していくことを検討している。

実施体制

加賀市とは、商工振興・観光振興の両面で連携する相互協力体制を整えており、市の広報誌やホームページにて情報発信している。併せて観光協会や商工会議所との連携した取組により、実施体制の強化、継続した取組の展開につなげている。

また、山代温泉通り商店街単体ではなく、商店街の枠組みを超えた若手を集めて取組を行うことで将来的な事業の継続・広がりにつながると考えていることから、若手メンバーによる勉強会は今後も継続していく予定。加賀山代塾を開催したことで、平成29年度には地域空間を活用するための若手による新しい組織「YOU・湯・遊」が立ち上がり、地域一体となった取組をさらに推進していく体制ができたところである。

取組の成果

地域一体となった取組で誘客を促進

アプリ導入により地域（旅館、観光施設、商店街）

キーパーソンからのコメント



山代温泉通り商店街振興組合
前理事長 須谷 祐二（左）
理事長 下達也（右）

来街者に「商店街の力を見せつけたい」

以前は当地域の団体がバラバラに活動し、商店街でも横のつながりがなく、商店街活動の話ができる相手も場もない状態でした。

まちあるき部会を機に、現場のアツイ人たちが集まり、自由に意見が言える場ができてからは、「商店街の力をみせつけよう」と1人1人の意識が変わっていききました。現在は、商店街の枠組みを超えたメンバーが集まり、活動の枠も広がっています。

今後も新しい取組を模索していく

若手を中心に結成した「YOU・湯・遊」は、山代を良くするために「自分はどうしたいのか」を発言し、皆で考える場となっています。呉服店がまちあるき部会で悩みを相談し、レンタル着物を始めたように、周囲に思いが伝われば、それぞれの得意分野が融合し、新たな取組が生まれると思っています。

今回導入したアプリもゴールではありません。データを分析し商店街の売上向上につなげたいし、これに拘らず、良いものがあればどんどん取り入れたいです。